

今日の聖書の本文に出ている柔和という言葉の原語であるギリシャ語では“フラウス(praus)”だと言います。あるギリシャ語学者は聖書で出ている柔和という概念を次の文章で説明しました。“柔和というのは人間に与えられている物理的な力、あるいは精神的な力がよく調節(コントロール)され、その人の人格の中であらわれる徳であり、それが柔和の態度の核心である”と指摘しました。

特に、イエス様の当時、この柔和(フラウス)という単語には主に3つの用例(ようれい)の場合よく使われました。一つ目、ある人が病気で高熱で苦しんでいる中、治療のお陰で一瞬その熱が下がって落ち着くようになった時、人たちは“もう大丈夫です!”という言葉代わりに“フラウス!”だと話したそうです。もう熱が下がり落ち着いている状態の意味として、“柔和になった!(フラウス)”だと言いました。

二番目、人々が突風のため多くの被害を受けてどうしようもなく迷っているうち、急に風が収まり始めた時に“フラウス!”つまり、風が和(やわ)らいで静まって来たのをこの柔和の言葉を使いました。

三目に、野生の馬などを馴(な)らす過程で訓練をさせている使います。訓練に訓練を繰り返して野生の馬がもう人々に脅かさなくなり、よく手なづけられている時、“フラウス!”“温順になった時”この単語をよく使ったそうです。この三つの場合に同じ共通点があります。それは全部力が調節(コントロール)されたということです。

今日我々が生きているこの時代は急速産業化され、早い情報化時代に生きていながら、人々にめっきり失い始めている態度の中で、自己自制ってということではないかなと思わされます。文明(ぶんめい)はますます発達し、人の生活もさらに便利になり生きやすくなりました。ところが人々はずっと神経質になり、もっと破壊的になっています。ささやかなことでも耐えられず、すぐこみ上げる怒りを抑えられない人々が増えています。1分カップラーメンで代弁する‘インスタント文化(instant culture)’に我々はいつの間にかになれて以前の世代の人たちよりじっくり待つことがもっと難しくなっています。もっと急ぐようにさせているため人はあせているし、もっとけわしくなり、より容易く怒りを爆発しながら人生を生きています。これは結局我々の精神生活に致命的な害を与えているのが事実ではないでしょうか。するとイエス様の言われる幸いだという柔和な者はどんな人でしょうか。そして御言葉が教えて下さっている柔和な者になるためには今日我々はどうすれば良いのでしょうか。

<Ⅱ. 真の柔和な者になるためには>

1. まず、聖書で幸いになる柔和な者は神様を信じる信仰が必要です。

なぜ信仰なしには柔和な者になるのができないのでしょうか。ただ神様だけを頼る者、神様の報いを確実に信じる人のみがまことに柔和な者になれます。なぜなら信仰がない者はだれかが自分に不義を行なった時、そのくやしさを我慢できず、なんだかの形で反応してしまいます。自分の人生は自分で守らなければならないという考えが、信仰のない人たちに強いからです。他人から苦しみを受けると直接仕返しはしないと心から憎み、仕返しの心を抱きます。それでいつかはかならず仕返しの日を待ちながら、表には親切で、何の問題がないように振舞うかもしれません。しかしこれはまことの柔和ではありません。

真の柔和は仕返しの心を完全に捨てることのみならず、相手の不義を心からゆるし、むしろ祝福を祈ってあげる事を意味します。ローマ書12章19-20節に復讐は神様のすることであって、私たちは悪者のように怒らないで、自分で復讐しないで神様の怒りに任せなさいと命令しています。柔和は私たちの主人であり、裁き主である神様に裁きの特権をゆだねる時こそ得られる信仰そのものであると言うことです。ですからこれは根本的に私たちの天性的な性格とか自然な品性とか自分の意志では不可能である事がわかります。

そういうわけですから柔和を得るため私たちには神様を信じる信仰が必要とされます。これはただ神様からの報いと天からの慰めと平安を求める者しか持てない品性だからです。詩篇37:7では“主の前に静まり、耐え忍んで主を待て。おのれの道の栄える者に対して、悪意をとげようとする人に対して、腹を立てるな”と書かれています。

同じ詩篇 37 : 9 節では“主を待ち望む者、彼らは地を受け継ごう”と書かれています。

柔和な者は他人からやられても復讐しないものがまさに柔和なものだという事です。自分は何の間違いもないのに、くやしくやられても人間的方法で、感情的に対抗しないでただ神様だけを見あげながら、神ご自身からのむくいと慰めを求める者です。イエス様がそうされました。“ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになるもの。”(第一ペテロ 2:23, マタイ 11:28)でした。

アザーピンクという神学者は柔和についてこう語りました。“柔和とは神様にたいして自己固執を曲げる事であり、人々に対しては悪い意志を曲げる事だ”といましたが、まさしくその通りだと思います。

御霊の九つの実を覚えていますか。その中 8 番目の実が柔和です。御霊の実に柔和があるという事実を深く黙想してみると自分たちの力で柔和な者になるわけにはけっしていけないことがわかります。私たちが聖霊の助けと恵み、聖霊を信じ頼るときこそ結ぶ事ができることを決して忘れてはいけません。

2. 神様の御前で心が貧しく、悲しむ者が柔和な者になれます。

悲しむ者は幸いであってその人には神様からのいやしと慰めが与えられると言われたイエス様は続いて三目の祝福、つまり“柔和な者は幸いです。”と言われました。悲しむ者は幸いですと言われた後、柔和な者を言われたことにはとっても大切な意味があります。これはつまり、心が貧しいと悲しむようになり、悲しむようになると柔和になるということです。どんな意味ですか。自分自身の罪性をさぐり、悲しむ者は自分が神様の前でひどい罪人であるにもかかわらず自分を赦してくださり、忍耐をもって自分をだいてくださる神様を絶えずしているため、たとえ他人からひどく扱われたとしても心よくふるまうことができる、これがまさに柔和だということです。

しかし、ここで注意すべきことがあります。神様の前で正しく自分をさぐってみると自分が罪人である事を認めやすいです。しかし問題は他人から自分が罪人だと言われるとそのとき我慢できなくなります。ほかの人から自分にそう言われることを赦す事がどれだけ難しいのか分かりません。私たちは本能的にそれをいやがります。正直ここに集っている私とみなさんはだれかが自分を裁くことより自分が他人を裁くことにもっとうまくできるのではないのでしょうか。ですから、むしろ高慢になって自己義に陥ってしまう場合もあります。正しく悔い改め、悲しんできた自分の信仰だけが純粹で、正しくて、神様に義とされるだろうという自己義に陥らないように気をつけなければなりません。

このような人に表わされる現状は不義な人、罪とあやまちを犯したほかの人々に対して忍耐がなくなり、さばく事になり、他人を無視し、さげすむ立場になりがちです。不義の人に対して忍耐ができなく、むやみに話してしまう大切な理由は、それによって自分を他人よりもっともらしく見せようとするためなのです。申し訳ないですが聖書ではこれを高慢だと言っています。これが信仰を持っていると言われている私たち内に身を隠している仮面であり、偽善なのです。

自分が神様の前で罪人である事を正直認めるなら、他人からそう言われてもそれを受け入れるべきです。これがまさに柔和な者の姿だからです。自分が神様の御前で罪人である事を本当にさとるようになるなら、いくら他人から自分が罪人扱いされてもそれを認める心が生じるという事です。まことに神様の前で自分をさぐり悲しむ者は自分の弱さ、罪に対してどれほど何度も何度もくりかえし失敗するものなのか自分をよく知っているため、むしろ他人の罪とあやまちに対して理解し慰めようとします。ですから霊的にまずしくて悲しむ人こそ、他人に寛大で、あやまちを覆ってあげようとし、忍耐強く、柔和な者として謙遜に生きるものになるのです。これが柔和な心なのです。この姿勢になる人こそ人からののしられても同じようにのしらないで、苦しまれても同じように仕返ししないで正しく裁いてくださる神様にすべてを任せる事ができます。そういうわけでイエス様は悲しむ者は幸いと言われた後、柔和な者は幸いと言われたのです。

例) みなさんの中で、MK タクシーに乗った事がある方がいますか。京都に本社がある MK タクシー会社のユボンシク

社長は在日日本人で、信実な長老さんです。今は主要都市である東京、横浜、名古屋、大阪、京都を中心にタクシー会社があるほど大企業になりましたが、その MK タクシー会社のある運転手の告白を紹介したいと思います。きっとその方はクリスチャンだと思います。

“イエス様は 2000 年前、何の罪もなくあやまちもなかったのに十字架につけられ侮辱と苦しみを受けて死にました。その方の苦しみを考えると耐え忍べない侮辱もなく、耐えられない苦しみもありません。タクシーを運転しているこの世に対して怒りをもっている多くの人々によく出会います。職場を失い、商売がうまくできなくて不満をいっている人々、傷つけられた人たちが酔っ払って運転手である自分に当り散らす時もしばしばあります。ある人はシートを足で蹴(け)るか、首にこぶしをにぎって脅かす者もいれば、それだけではなく足を頭にもってくる人もあります。その時も私はじっと耐え忍びます。イエス様を思い出しながら耐え忍びます。十字架につけられて死なれたイエス様を考えるとこれらのことは苦しみにもなりません。かりにその人たちへの我慢が運転手の社会的地位と家族を扶養(ふよう)する生計のためだけならこれほどみじめなことはないでしょう。しかしむしろ私のその人々に対する忍耐と笑顔の親切な姿を通して彼らが力づけられてこの社会で生きていけるようにすることが私の使命だと思います。彼らに勇気を与え、生きる意欲を引き起こす事ができるなら私はいくらでも彼らの腹いせの対象になることができます。”

まさに柔和な者のすばらし姿ではないでしょうか。私たちも神様に喜ばされ、人を生かし、立てる事ができる柔和な者になりましょう。その時神様は私たちにさらなる祝福を与え、様々な人々を私たちにゆだねてくださると信じます。

3. 柔和な者はイエス様に似た者です。

愛するみなさん！ 私たちが柔和になるためには何よりもイエス様から教わるべきです。この地に来られた神様であるイエスキリストこそ柔和であり、ご自分でその柔和を表わしてくださった方ではありませんか。イエス様は人々からののしられても、無視される時でも、むち打たれて十字架につけられる時でも自分を弁明せず、悔やみをいだかないでだまっていました。そしてむしろ後ろ指差すものたちに対して赦しの言葉を述べ伝え、祝福してくださいました。そのイエス様が今日私たちにこのような御言葉を言われておられます。有名な箇所である**マタイの福音書 11 章 29 節**をどなたが読んでくださいますか。“心やさしく、へりくだっているから”この単語がまさしく**柔和**という言葉の解き明かしている部分です。ですから“私は**柔和で謙遜だから私のくびきを負って私から学びなさい**”とイエス様は明確に言われました。

イエス様は地を受け継ぐ祝福が柔和な者に与えられるが、その柔和をイエス様から学びなさいと言われていました。イエス様をみてください。イエス様ご自身が柔和な者だったので、最後までなんの力のない者のように十字架につけられました。しかし武力でイエス様を十字架につけたローマ帝国はしばらくたってから人類の歴史の中で滅ぼされてしまいました。しかし十字架につけられたイエス様はどうですか。今も数多くの人々の心と魂に感動を与え、彼らの人生も柔和な者に変えられているのではありませんか。私たちは一日でキリストの似姿に変えられませんので、柔和なイエス様からつねに、死ぬ時まで謙遜に学ぼうではありませんか。一生涯、人生最後まで柔和な者が最後の勝利者になるという事実を忘れないようにしましょう。

例え) 世界を征服しようとした**ナポレオン**に対するこのような実話があります。ナポレオンは自分の権力欲を満たすためフランスを占領しヨーロッパ全体を武器で占領しました。しかし彼は自分が奪った領土をまた奪われ、部下たちでさえ彼を捨ててしまい、彼は結局小さな島であるセイトヘレナで悲惨な最後を迎えます。その時ナポレオンはこんな話を残したそうです。“私はいままで自分の領土と自分の権力のために走り、自分の部下を手に入れるために戦ったのに、いま私には何一つ残ってない。しかしイエスは領土もなく部下もなく十字架の上で無力に死んだのに今日彼を追いかける人たちがどんどん増えるのはなぜなのか。私は今やわかった。私は世を征服するために強い兵士たちを集めたが、イエスは熱い愛を分け与えたことを！”

ナポレオンのこの絶望的な告白は結局、強いものが最後に勝つ事ではなく、あったかい愛をもっている柔和な者こそ最後に勝利してすべてを得て笑う事ができることをよく見せてくれる例ではないでしょうか。今日私たちがイエス様のように、柔和という品性の聖霊の実がこの5月豊かに結ばれ、神様の祝福を受け継ぐみなさんとなりますようにイエスキリストの御名によって祈ります。

＜Ⅲ. 柔和な者に与えられる祝福＞

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！イエス様は柔和な者に“地を受け継ぐ”祝福を約束されました。弱肉強食（じゃくにくきょうしょく）のこの世では、金があって、権力のある者たちが地を買うか、柔和な人たちなんかは地を所有するわけがないだろう？と思われるかもしれませんが。むしろ正しくない方法で生きる人たちがたくさんの財物と地を集めています。それなのにイエス様は柔和な者が地を受け継ぐとされています。なぜならたとえ神様をしらない者たちがこの世を所有し権力をふるまうとしても究極的この地を受け継ぐ主人公は‘柔和な者’だからです。そういうわけで詩篇 37 篇 11 節では“しかし、貧しい人は地を受け継ごう。また、豊かな繁栄をおのれの喜びとしよう。”とされているのです。ここで言われている“地”とはなんでしょうか。一次的には‘未来の地’を言います。つまり信徒たちがやがて入ってすむ‘新しい天と新しい地’を言います(第二ペテロ 3:13)。つまり天国を言います。そこには涙もなく、苦しみとのろいもありません。そこにはただ子羊であるイエスキリストを信じる者だけが入ります。

それだけではなく柔和な者は現在この世にあってもその天国の祝福を味わうことができます。使徒パウロはなにもなくても柔和なのですべてを所有していると語りました。第二コリント 6:10 で、“悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。”そして地は現在の働ける機会と時間であり、豊かさを意味します。実際に私たちの周りをみていると、神様は柔和な者に神様のために働く機会と職場を広げてくださる事をよくみることができます。柔和な牧会者と柔和な教会に神様はたくさんの羊の群れを与えてくださいます。神様のために尊く用いられた信仰の人たちは一様(いちよう)に柔和な者たちだった事実を覚えましょう。柔和な者になった時こそようやく神様の御手におかれて自由に、おおいに用いられる者になることをぜひ覚えましょう。人生最後まで柔和な者が最後の勝利者になるという事実をいつも覚えましょう。

生きているうちに神様の祝福を实际受け継ぐクリスチャンプレイズチャーチの信仰のすべて家族となりますように、召されて新しい天と地である天国を所有する幸いな人生、真の成功した勝利者となるみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！